

2016年度

東京学芸大学 留学生センター

年 報

はじめに

ここに平成 28 年度の留学生センター年報をお届けします。

現在、留学生の総数は 247 名で、その内、教員研修留学生が 22 名、日本語日本文化研修留学生が 10 名、協定校からの交換留学生が 64 名です。留学生総数がピークであった平成 16 年（526 名）と比較すると半数以下であり、一昨年度 10 月の留学生総数が 299 名、昨年度 10 月の留学生総数が 286 名でしたので、減少傾向に歯止めがかかっていないのは明らかです。平成 27 年度の学内改組で教養系が廃止され、教育支援系が創られましたので、そのことがこれからどう影響してくるか、注意深く見守っていきたいと思います。

その一方で、グローバル化が進行し、国際交流が進展していることを踏まえて、本学の第 3 期中期目標には「英語で行う授業等を増やし、日本の教育や日本文化・社会について学びやすい体制を作るとともに、日本の教育を世界に発信する基礎を築く。また、本学学生と留学生との交流の機会を増やす」と記され、中期計画には「留学生の協力を得た授業の実施など、本学学生に学内において留学生との交流を体験させる機会を増やす」と記されているように、海外に向けて開かれた大学づくりが喫緊の課題です。

本学は、日本の教員養成系大学のトップとして、多様な分野の教員を抱える、教育に強い大学であるのみならず、東京郊外の自然ゆたかな立地条件にあるため、海外の大学から関心をもたれる基本的条件は有していますので、留学生が本学で学べてよかったと思えるような、そして留学生と日本人学生が共によるこんで学べるような環境づくりを、さらに丁寧に推し進めていく必要があります。

留学生センターでは、その一環として、平成 27 年度から留学生と日本人学生が共に学ぶ多文化共修科目を開設しました。それらの科目の扱いや ISEP 科目の検討など、カリキュラム上の改革から、留学生の生活支援にいたるまで、その整備と充実に取り組んでいく所存ですが、留学生センターだけでは充分に対応できない事柄につきましては、全学に支援を求めていきたいと考えております。

今年度は、4 月にポーランドの協定校であるヤゲロー大学からアンナ・ヴィジコフスカ国際交流担当課長とエヴァ・カミンスカ准教授の訪問があり、エラスムス・プラス・ワンの紹介と打診がありましたが、回答できませんでした。11 月には、平成 28 年全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議で、当番校として運営に当たりました。

末尾となりますが、留学生の学習、研究、生活支援にご協力いただいている先生方、学生、地域の皆さまに、心より感謝申し上げます。

東京学芸大学留学生センター長
赤司 英一郎

目 次

はじめに

1. 全学留学生対象の事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - 1.1 日本語科目の構成
 - 1.2 日本語1～3：開講枠数およびプレースメントテスト受験者数
 - 1.3 日本語1～3：レベル別開講科目および枠数（春学期）
 - 1.4 日本語1～3：レベル別開講科目および枠数（秋学期）
 - 1.5 日本語4・5：レベル別開講科目（日本語集中コース）
 - 1.6 日本理解科目開講枠数
 - 1.7 留学生による授業評価
 - 1.8 研究・生活支援事業および見学・交流事業

2. 国費研究留学生および教員研修留学生対象の事業・・・・・・・・・・8
 - 2.1 2015年度入学教員研修留学生および研究発題目
 - 2.2 2015年度入学教員研修留学生 主な行事
 - 2.3 2016年度入学教員研修留学生
 - 2.4 2016年度入学教員研修留学生 主な行事

3. 日本語日本文化研修プログラム留学生（日研生）対象の事業・・・・・・・・10
 - 3.1 2015年度10月入学日研生および修了レポート題目
 - 3.2 2015年度10月入学日研生 主な行事
 - 3.3 2016年度10月入学日研生
 - 3.4 2016年度10月入学日研生 主な行事

4. 短期留学プログラム（短プロ/ISEP）留学生対象の事業・・・・・・・・・・13
 - 4.1 2015年度10月入学短プロ/ISEP生および個人研究題目
 - 4.2 2015年度10月入学短プロ/ISEP生 主な行事
 - 4.3 2016年度10月入学短プロ/ISEP生
 - 4.4 2016年度10月入学短プロ/ISEP生 主な行事

5. その他の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

6. 教員の教育・研究活動	17
資料1 日本語科目一覧	26
資料2 日本理解科目一覧	30
資料3 短期留学プログラム科目一覧	30
資料4 主な行事の写真	32
資料5 教員研修・日研究生・ISEP各プログラム概要	33

1.全学留学生対象の事業

1.1 日本語科目の構成

	授業形態	必修・選択の別	クラスの決定方法
日本語 1	一般 1科目当り 週2時間	選択	全学日本語プレースメントテストならびにCan-do statements 調査による
日本語 2			
日本語 3			
日本語 4	集中 週12時間 [日本語4] 週20時間 [日本語5]	国費研究留学生・教員研修留学生で日本語能力の低い者は必修	学習歴調査による
日本語 5			

1.2 日本語 1～3：開講枠数およびプレースメントテスト受験者数

	春学期	秋学期	計
開講枠数	36 (枠)	36 (枠)	72 (枠)
プレースメントテスト受験者数	128 (人)	107 (人)	235 (人)

1.3 日本語 1～3：レベル別開講科目（春学期）

	総合	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	発音	特別演習	プロジェクト	計
日本語 1	1	1*	2	1*	1	1	1	1	2**	1	12
日本語 2	1	2	2	2	1	1	1		2		14
日本語 3	2	1	2	2	1	1	1	-	-	-	10

*これ以外に日本語教育教室で開設している正規の日本語科目が各1枠ある。

**学部開設科目「学芸フロンティア科目F」との合同授業

1.4 日本語 1～3：レベル別開講科目（秋学期）

	総合	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	発音	特別演習	プロジェクト	計
日本語 1	1	1*	2	1*	1	1	1	1	3*	-	12
日本語 2	1	2	2	2	1	1	1		2		13
日本語 3	2	1	2	2	1	1	1	-	1	-	11

*これ以外に日本語教育教室で開設している正規の日本語科目が各1枠ある。

1.5 日本語４・５：レベル別開講科目（日本語集中コース）

	学期	開講枠数（科目別内訳）	受講者数（身分別内訳）
日本語４	春	5 枠/週 (総合４・発表１)	2 名 (研究生 2)
		8 枠/週 (文法 2・会話 2・漢字 2・聴解 1・発表 1)	4 名 (教員研修生 4)
	秋	8 枠/週 (総合４・会話 1・作文 1・講読 2・漢字 1)	8 名 (教員研修生 1 ISEP 生 6 交換留学生 1)
日本語５	春	開講せず	該当無し
	秋	10 枠/週 (総合 2・文法 2・文字 2・会話 1・聞き取り 1・作文 1・講読 1)	4 名 (教員研修生 3 ISEP 生 1)

1.6 日本理解科目開講枠数

	春学期	秋学期	計
多文化共修科目 (留学生センター&学部開設)	2	2	4 (枠)
日本理解 (留学生センター開講)	4	4	8 (枠)

1.7 留学生による授業評価

春学期全体集計結果		問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16
回答総数	平均	4.82	4.70	4.58	4.60	4.84	4.71	4.75	4.79	4.75	4.70	3.03
532	標準偏差	0.53	0.65	0.78	0.76	0.53	0.68	0.63	0.56	0.63	0.72	0.70

秋学期全体集計結果		問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16
回答総数	平均	4.78	4.63	4.54	4.61	4.81	4.69	4.73	4.71	4.71	4.67	3.06
454	標準偏差	0.61	0.69	0.80	0.72	0.56	0.72	0.66	0.68	0.73	0.70	0.69

[アンケート項目]

問 6. 授業科目名や目標にあった授業内容だった。 [5 4 3 2 1]

問 7. 授業内容がよく理解できた。 [5 4 3 2 1]

問 8. 興味を持って受講できた。 [5 4 3 2 1]

問 9. 新しい知識・能力・技能が身についた。 [5 4 3 2 1]

- 問 10. 教員は熱心だった。 [5 4 3 2 1]
- 問 11. 教員の指示はわかりやすかった。 [5 4 3 2 1]
- 問 12. 教員の説明は適切だった。 [5 4 3 2 1]
- 問 13. 教員は質問にわかりやすく答えてくれた。 [5 4 3 2 1]
- 問 14. 教員の話し方は聞き取りやすかった。 [5 4 3 2 1]
- 問 15. 教材は適切だった。 [5 4 3 2 1]
- 問 16. (日本語のクラスについて聞きます。) あなたにとってこのクラスは、
[5:むずかしすぎた 4:むずかしかった 3:ちょうどよかった 2:やさしかった 1:やさしすぎた]

1.8 研究・生活支援事業および見学・交流事業

事業内容	実施日	参加者数(延数)
研究・生活支援事業		
新入学生オリエンテーション	4月6日・10月5日	32名・78名
新入生ウエルカムパーティ	4月6日・10月5日	春：約30名 秋：約40名
にほんごカフェ	春学期：毎週月3限、月4、水4限(計32回)、 秋学期：毎週月4限、火4限、水4限(計35回)	春学期：日本人53名、留学生96名 秋学期：日本人59名、留学生108名
オフィスアワーによる相談時間	週6回	日直教員で対応
見学・交流事業		
国際交流合宿	7月2日～3日、 山梨県山中湖村平野 筑波大学共同研修所	学生22名(日本人4、留学生18)、引率教員2名
歌舞伎鑑賞教室(教研究生・国費研究生、ISEP)	6月8日 6月22日	18名(教研究生15名・国費研究生5名)引率教員1名、ISEP生10名
貫井雛子ワークショップ	6月10日	35名
歌舞伎ワークショップ	12月7日	41名

歌舞伎鑑賞教室	2月27日、浅草公会堂	学生26名、 引率教員1名
留学生センター主催講演会 「三味線・民謡ワークショップ」：講師 浅野祥氏	1月19日（木）4限	留学生17名、教 員1名
結城座ワークショップ	11月9日、 結城座スタジオ	学生48名、 引率教員3名
多文化交流カフェ（学芸カフェテリアランチ講座）	毎週金曜日昼休み 春学期：全12回 秋学 期：全11回、春の散歩： 4月27日（水）4限、参 加24人（日12人、留 12人）、紅葉狩り：11月 30日（水）4限：参加 20人（日8人、留12人）	春学期：日本人 79名、留学生53 名 秋学期：日本人 67名、留学生21 名
海外の学校教育事情 Education and Culture Abroad （学芸カフェテリアランチ講座）	春学期毎週1回 （計11回）	協力教研生15名 春学期：日本人 15名、留学生20 名
アジア語学カフェ（学芸カフェテリアランチ講座）	毎週木曜日昼休み 春学期：全12回	日本人49名、留 学生80名
チャイナカフェ（学芸カフェテリアランチ講座）	毎週木曜日昼休み 秋学期：全11回	日本人119名、 留学生79名
코리아カフェ（学芸カフェテリアランチ講座）	毎週月曜日昼休み 秋学期：全11回	日本人103名、 留学生36名
留学生センター主催講演会 「劇作を通して見る日本語のコミュニケーション」： 講師 松井周氏	2月1日（水）4限	学生15名、教員 4名

2. 国費研究留学生および教員研修留学生（教研生）対象の事業

2.1 2015 年度入学教員研修留学生および研究発表題目

氏名	国籍	指導教員
個人研究題目		
Muhardina, Mirna	インドネシア共和国	島田 めぐみ
「ジハード」と「ジバク」の本来の意味と連想的な意味の比較研究		
Hasna, Shafa Gita Pramesari	インドネシア共和国	斎藤 ひろみ
中高生を対象にした日本語の「漢字」教育について－初級レベルにおける指導方法の提案－		
Lomsri Thirat	タイ王国	斎藤 ひろみ
タイ中等教育段階の初級日本語クラスにおける PBL の提案－21 世紀型スキルの育成を目指して－		
Sim, Suhyun	大韓民国	岡 智之
日本語授業における効果的な指導法の考察－アクティブ・ラーニングを中心に－		
Kim, Seolli	大韓民国	見世千賀子
日本の外国人児童生徒に対する支援体制－小学校を中心に－		
Jeon, Minyoung	大韓民国	粕屋恭子
<i>The Effective Way for Extensive Reading</i>		
Taro, John Selwyn	ソロモン諸島	末松祐基
<i>Sustaining Rural and Remote Schools : A Comparative Case Study of Japan and Solomon Islands</i>		
Kudabekov Murat	キリギス	斎藤 ひろみ
日本語教科書の比較に関する一考察		
Vedrana Ljuljovic	クロアチア	加賀美雅弘
<i>Comparative Study of Geography Education Curriculum and Teaching Methods in Croatia and Japan</i>		
Vujaklija, Milijana	セルビア	末松祐基
<i>A Comparative Study on EFL Policies and Practices in Serbia and Japan's Primary and Secondary Education</i>		
Isaac Titiati	ガーナ	渋谷英章
<i>A Comparative Study into the Duties and Activities of Elementary School Teachers in Ghana and Japan</i>		
Shem Odhiambo Agunga	ケニア	中島裕昭
<i>Use of Drama As a Teaching Tool for English</i>		
Yu Ziya	中国	前原健二
<i>Preliminary Analysis on Education : China & Japan</i>		
Ding Anlian	中国	林尚示
日本の教員と中国の教員の比較について		

* 『2015.10～2016.3 教員研修留学生 研修レポート集』として刊行予定

2.3 2015 年度入学教員研修留学生 主な行事

- 4月11日 オリエンテーション II
- 6月08日 歌舞伎鑑賞教室（国立劇場）
- 2月27日 教員研修留学プログラム研究成果報告会・修了式

2.4 2016 年度入学教員研修留学生

氏名	国籍	指導教員	予備教育受入
Oktaviani Irma Milorad	インドネシア	山田一美	
Pyo, Eunjung	大韓民国	高山芳樹	
Yoo, Seunghee	大韓民国	藤井斉亮	
Lee, Changmin	大韓民国	高橋 純	
Kim, Juhee	大韓民国	粕谷恭子	
Sisaki, Marina	クロアチア	中島裕昭	2016 秋学期
Ebouli, Parfait Antsina	ガボン	末松裕基	2016 秋学期
Mwagomba, Vincent	マラウイ	鎌田正裕	2016 秋学期

(計 8 名)

2.5 2016 年度入学教員研修留学生 主な行事

- 10月06日 オリエンテーション
- 11月09日 結城座ワークショップ
- 12月07日 歌舞伎ワークショップ
- 12月14日 附属竹早小学校訪問

3. 日本語日本文化研修留学プログラム留学生（日研生）対象の事業

3.1 2015 年度 10 月入学日研生および修了レポート題目

氏名	国籍・所属大学	指導教員
修了レポート題目		
ハイルン アル ラシド	インドネシア・北スマトラ大学	許 夏玲
日本のアニメにおける主人公の個性的表現の分析―「ワンピース」のアニメを中心に―		
チョウティナワノン チャリワン	タイ・シラパコーン大学	佐伯英子・有澤知乃
日本における働く高齢者の考え方―自尊心および健康要因との関連―		
フデュンヤワッチャナーノン ポワーンラック	タイ・シーナカリンウィロート大学	岡 智之
異世代の日本人における LGBT に対する思考		
タンチャラン シリワン	タイ・カセサート大学	谷部 弘子
日常会話における出会いと別れの挨拶としての「お疲れ（様）・お疲れ様です」―若者の使用実態を中心に―		
テイ ショウコウ / 鄭 勝鴻	中国・東北師範大学	許 夏玲
『伊勢物語』成立論―助動詞「き」「けり」を中心に―		
チャン ジークワン ユイ	中国（香港）・香港城市大学専上学院	谷部 弘子
日本語学習者におけるカタカナ語の理解		
ナンキンミョーテツ	ミャンマー・マンダレー外国語大学	島田めぐみ
日本の公立図書館におけるミャンマーに関する図書について		
ヤン アウン カイン	ミャンマー・マンダレー外国語大学	斎藤 純男
在日留学生の就職に関する意識調査		
チンバット ビャンバジャルガル	モンゴル・国立科学技術大学	許 夏玲
海外におけるジャパンイベントやフェスティバルに関する日本人の意識調査―クールジャパン政策に関連して―		
ムフトロフ ドストン	ウズベキスタン・タシケント国立東洋学大学	岡 智之
あいづちにおける「うん」の機能―日常会話を中心に―		
アルマン ライネ	エストニア・タリン大学	斎藤 純男
日本の人口減少―減少の原因とメディアの対応―		
ジェリニスカ キンガ スタニスラヴァ	ポーランド・アダム・ミツケヴィチ大学	谷部 弘子
日本とポーランドの現代の少女向けの小説における女子同士の関係		

アッパースィ ミトラ	イラン・テヘラン大学	島田めぐみ
日本文化における「お辞儀」の重要性		
ドウンバイ エスィン	トルコ・チャナッカレオンセキズマルト大学	斎藤 純男
日本の茶道文化とその海外への普及		
ブアンソッチューン パーチャリー	タイ・シラパコーン大学	岡 智之
若者語における「ル言葉」の使用実態		
ヘルマンソ ベニータ ジョセフィン	スウェーデン・ヨテボリ大学	岡 智之
大学教員の学生に対する呼称—「性」の視点から—		
ウムラント ルイーザ アレッサンドラ	ドイツ・ハイデルベルグ大学	谷部 弘子
外国人と日本人による地図記号の理解の仕方		
シャ レイ / 余 麗	中国・北京師範大学	斎藤 純男
日本企業のスローガンに関する考察		
デプレシヤン マリーヌ エディット マドレーヌ	フランス・東洋言語文化大学	島田めぐみ
日本語における助詞の省略と日本語母語話者と日本語学習者の意識と理解		

* 『2015.10～2016.8 日本語日本文化研修留学生 研修レポート集』として刊行 (計 19名)

3.2 2015 年度 10 月入学日研生 主な行事

- 4 月 27 日 石川酒造見学 (福生市)
- 5 月 11 日 セミナー: 子どもの発達と視線の獲得 (講師: 出口利定学長)
- 6 月 01 日 和菓子作り (講師: 亀屋 海老原康二氏・満氏)
- 6 月 08 日 貫井囃子ワークショップ
- 6 月 22 日 セミナー: 西洋近代が日本文化にもたらした空間感覚の変容について
(講師: 赤司英一郎留学生センター長)
- 6 月 29 日 NHK 放送センター見学
- 7 月 13 日 国会議事堂見学
- 8 月 02 日 研究レポート発表会, 日研生プログラム修了式

3.3 2016年度10月入学日研究生

氏名	国籍・所属大学	指導教員
ユディアント サニアティルワダイ アヌグラ	インドネシア・インドネシアコンピューター大学	谷部 弘子
チュティチューデート ラティマー	タイ・タマサート大学	斎藤 純男
ウォンスワン パーラポーン	タイ・スィナカリンウィロット大学	島田めぐみ
ゲレルバダラフ マンダルスレン	モンゴル・モンゴル国立教育大学	谷部 弘子
ヴォジニャック キンガ ドロタ	ポーランド・ニコラウスコペルニクス大学	島田めぐみ
チャコ ユクセルジャン	トルコ・チャナッカレオンセキズマルト大学	岡 智之
スミス クラーク ケッターズ	アメリカ・カーセージ大学	許 夏玲
サマーティ スチャナート	タイ・シラパコーン大学	許 夏玲
ニアージ ミカエル	スウェーデン・ヨテボリ大学	斎藤 純男
チョウ コウテキ	中国・北京師範大学	岡 智之

(計 10 名)

3.4 2016年度10月入学日研究生 主な行事

- 10月06日 日研究生オリエンテーション
- 11月02日 附属小金井小学校との交流授業（第1回）
- 11月09日 糸操り人形ワークショップ（結城座）
- 12月07日 歌舞伎ワークショップ（劇団前進座）
- 12月14日 立川防災館にて体験学習
- 1月06日 江戸東京たてもの園 & 「正月の昔あそび」見学・体験
- 1月24日 附属小金井小学校との交流授業（第2回）
- 2月01日 劇作に見る現代日本のコミュニケーション

(講師：劇作家・演出家・俳優 松井 周氏)

4. 短期留学プログラム（短プロ/ISEP）留学生対象の事業

4.1 2015 年度 10 月入学短プロ/ISEP 生および個人研究題目

氏名	所属大学	指導教員
個人研究題目		
QIU Mengdie (邱 梦蝶)	南京師範大学	渡邊 正樹
The Comparative Study of Traffic Safety Education of Elementary and Secondary School in Japan and China		
CAO Yaman (曹 亞曼)	Nanjing Normal University	林 尚示
Analysis of Edogawa Ranpo's Short Detective Fictions: Using Criminal Psychology		
KAO Yu-Jie (高 于捷)	National Taiwan University	伊藤 由希子
Japanese Dramas Audiences' Viewing Motivation, Viewing Behavior and Quality of Life— Comparison Between Japanese and Taiwanese Audiences		
LEE Chen-Yu (李 振宇)	National Taiwan University	渋谷 英章
Relationship between the Quality of Life and the Quality of Sleep in Elder Adults in Kodaira city (Tokyo)		
WU Mei-Shiuan (吳 玫萱)	National Taichun University of Education	太田 朋宏
Situation of the Traditional Woodcrafts in Japanese Modern Society		
DIXON Amber Marie	Eastern Michigan University	馬場 哲生
How the Brain Processes Language: Does Personality Play a Role in How a Person Performs in a Foreign Language?		
SNIDER Nicole Jo	Eastern Michigan University	伊藤 由希子
Marketing: Strategies and Success within the Young Adult Market in Japan		
DIXSON Jory Thomas	Victoria University	菅 美弥
Comparing Japanese and Australian Attitudes to Multiculturalism		
LEE Trevor	University of Western Sydney	許 夏玲
The Feasibility of Multi-Cultural Japan		
KOKTAY Sonay	University of Heidelberg	臼倉 美里
Japanese Women: What Impact Did the American Lifestyle and Pop-culture Have on Beauty Standards for Women in Japan and What Changes Did Occur Since the 20th Century?		

(計 10 名)

* 『ISEP Individual Study 東京学芸大学短期留学プログラム個人研究レポート集 Autumn 2015-Spring 2016』として刊行

4.2 2015 年度 10 月入学短プロ／ISEP 生 主な行事

- 5 月 18 日 江戸東京たてもの園
- 5 月 25 日 江戸東京博物館
- 6 月 8 日 貫井嚙子ワークショップ
- 6 月 22 日 歌舞伎鑑賞教室（国立劇場）

4.3 2016 年度 10 月入学短プロ／ISEP 生（16 名）

氏名	所属大学	指導教員
MA Ye (馬 也)	Nanjing Normal University	馬場哲生
SHEN Mingzhu (沈 明珠)	Nanjing Normal University	渋谷 英章
SHING Hong Yung (成 康鏞)	Chinese University of Hong Kong	斎藤 一久
YAU Wing Tung (邱 詠彤)	Chinese University of Hong Kong	浅野 智彦
CHEN Liang-Cheng (陳 亮錚)	National Taiwan University	柴田 彩千子
KUO Chao-Ling (郭 昭伶)	National Taiwan University	近藤 弘幸
LIU Fang-Wei (劉 芳瑋)	National Taichun Normal University of Education	椿 真智子
THORNELEY Samuel Anthony John	University of Western Sydney	見世 千賀子
DAVID Angela	Victoria University	有澤 知乃
HUNTER Belle Kendra	Victoria University	有澤 知乃
BELCHER Shelby Sue Ann	Ball State University	末松 裕基
STRIEGLE Cassandra Marie	Ball State University	斎藤 純男
NERIDA Keith Isidro Masatoshi	University of Hawai'i at Hilo	佐藤 正光
ANDL Abraham James	University of Hawai'i at Hilo	鈴木 廣之
PONTES-BORJE Jenna Hau'oliahanaukoalahou-koanui	University of Hawai'i at Hilo	島田 めぐみ
MARROQUIN FIGUEROA Martha Guadalupe	Universidad de Ciencias y Artes de Chiapas	鉄矢 悦朗

4.4 2016年度10月入学短プロ／ISEP生 主な行事

- 10月5日 開講式
- 11月19日 結城座ワークショップ
- 11月30日 上野下町資料館
- 12月7日 前進座による歌舞伎ワークショップ
- 12月14日 附属竹早小訪問
- 1月12日 木目込み人形製作体験（真多呂人形会館）
- 1月19日 三味線・民謡ワークショップ

5. その他の活動

- Facebook : Tokyo Gakugei University Alumni Network of International Students のページを引き続き運営し、周知に努めた。
- 教育研究整備充実費の配分を受け、N棟 313 教室の機器一式を更新した。
- 国立大学法人留学生指導研究協議会に参加した（大阪大学[2月3日]）。
- 小金井市主催の外国人スピーチコンテストへの後援と協力を行った（7月9日）。
- 小金井第四小学校こども祭りで留学生コーナーを設け、小学生との交流を図った（6月24日）。
- 刊行物
 - (1) 『2015 年度 東京学芸大学留学生センター年報』
 - (2) 『2014.10-2016.3 教員研修留学生研修プログラム最終報告書』
 - (3) 『2015.10-2016.8 日本語日本文化研修留学生修了レポート集』
 - (4) 『ISEP Individual Study 東京学芸大学短期留学プログラム個人研究レポート集 Autumn 2015-Spring 2016』
 - (5) 2016 年度留学生センター通信 第2号

6. 教員の教育・研究活動

■有澤知乃

【所属部門】 日本理解教育部門

【研究分野】 民族音楽学, 日本研究

【研究活動】

① 論文

「ローカル文化のグローバル化：箏曲家、沢井一恵の視点」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系 II 』68集, pp.493-50

【教育活動】

留学生センター開講科目

(春学期) Exploring the Cultural Diversity of Japan (I), Traditional Performing Arts of Japan, ISEP Seminar (II), 「日本研究演習B」

(秋学期) Exploring the Cultural Diversity of Japan (II), Introduction to Japanese Music , ISEP Seminar (I), 「多文化共修科目D」

大学院開設科目

(春学期) 「地域研究教育内容基礎研究法」

【その他の活動】

①学内

国際戦略推進本部留学プログラム実施部会委員

②学外

科学研究費補助金 若手研究 (B) 「横浜中華街の民族芸能グループにおける華僑のジェンダー意識—アイデンティティ形成のプロセス—」 (研究代表者)

【所属学会】

International Council for Traditional Music, 東洋音楽学会, 日本音楽学会

■岡 智之

【所属部門】 日本理解教育部門

【研究分野】 言語学(場の言語学、認知言語学、対照言語学)、日本語文法

【研究活動】

① 論文

「場の観点から認知を捉える～主観的把握と客観的把握再考～」『日本認知言語学会論文集 第16巻』 pp.40-52 (大塚正之と共同論文)

② 口頭発表

1. 「多文化共修科目における異文化理解とコミュニケーション促進の効果～多文化共生キャンパス実現に向けた取り組み～」『2016年度異文化間教育学会第37回発表抄録』pp118-119, 異文化間教育学会第37回大会、東京：桜美林大学、2016年6月
2. 「場の観点から言語の主観性を再考する」『日本認知言語学会第17回大会 Conference Handbook』 pp19-22, 日本認知言語学会第17回大会ワークショップ『場の言語学の展開～西洋のパラダイムを超えて～』代表者・司会、東京：明治大学、2016年9月
3. 「場の言語・コミュニケーション研究の課題」場の言語・コミュニケーション研究会主催シンポジウム『ことば・身体・場：競争社会から共創社会へ』招待講演、東京：早稲田大学、2017年1月－報告書あり
4. 類型論を視野に入れた『ナル表現』研究会（国際発表会）で朝鮮語の指定発表と討論者、東京：創価大学、2017年3月

【教育活動】

留学生センター開講科目

（春学期）日本語1文法A

（秋学期）日本語1文法B、日本語5会話B

学部開講科目

（春学期）多文化共修科目A「異文化理解とコミュニケーション」

（秋学期）多文化共修科目B「多文化社会とコミュニケーション」

大学院開設科目

（春学期）言語学特論A、日本語教育フィールド研究A

（秋学期）言語学特論B

ゼミ等

（春学期）卒論・修論ゼミ、日朝対照言語学自主ゼミ

(秋学期) 卒論・修論ゼミ、日朝対照言語学自主ゼミ
修士論文主査：3人

【その他の活動】

① 学内

1. キャンパスライフ委員会委員
2. 海外日本語教育実習企画引率 (タイ：シラパコーン大学等) 2016年8月27-9月3日
3. 第1回東京学芸大学ヒューマンライブラリー「未来の子どもに伝えたいこと」実行委員会代表、2016年12月4日、報告書あり

② 学外

1. 科学研究費基盤研究 (C) 「言語コミュニケーションにおける場の理論の発展」 (研究分担者)
2. 「場の言語・コミュニケーション研究会」事務局長

【所属学会】

日本認知言語学会、日本語教育学会、異文化間教育学会、国立大学留学生指導研究協議会

■ 齋藤純男

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 言語学, 音声学

【研究活動】

①論文

“Milk” in Mongolic and Turkic, In: Mitsuaki Endo ed., *Studies in Asian Geolinguistics III*
—MILK—. ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. 2016.

②その他

(翻訳) クリストファー・ベックウィズ『ユーラシア帝国の興亡—世界史四〇〇〇年の震源地』筑摩書房、2017年3月

【教育活動】

留学生センター開設科目

(春学期) 「日本語1・2(発音A)」, 「日本語4(漢字A1)」, 「日本語4(漢字A2)」, 「多文化共修科目C(世界の言語と文化)」

(秋学期) 「日本語1・2(発音B)」, 「日本語3(作文B)」, 「日本語4(漢字B)」

大学院開設科目

(秋学期) 「地域研究教育内容基礎研究法(中央ユーラシアの諸言語・諸民族)」

【その他の活動】

① 学内

1. 協定校コーディネーター (ヨテボリ大学、ウメオ大学)
2. 学術情報委員会委員

②学外

1. 日本音声学会 (評議員、理事、編集委員長)
2. 日本モンゴル学会 (理事)

【所属学会】

日本語学会, 日本音声学会, International Phonetic Association, 日本音韻論学会, 日本語学会, The Altaic Society of Korea, 日本モンゴル学会, The Mongolia Society

■島田めぐみ

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 言語テスト, 言語接触

【研究活動】

① 論文

島田めぐみ・谷部弘子・孫媛 (2016) 「日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号、東アジア日本語教育・日本文化研究学会、pp. 197-210

② 口頭発表

1. 島田めぐみ (2016) 「日本語能力試験評価システムから見る日本語教育のあり方」第二届全国高校日本語専攻教学改革与発展高端論壇 (第2回全国日本語専攻教育改革及び発展トップシンポジウム)、北京、2016.4.23 (招待講演)
2. 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子 (2016) 「Formative Assessment in Language Education: the Development of a Diagnostic Japanese Grammar Test」 31st International Congress of Psychology、ポスター発表、日本 (横浜)、2016.7.26
3. 谷部弘子・島田めぐみ・孫媛・登藤直弥 (2016) 「助詞に着目した日本語文法能力測定の試み-タイ語母語話者に対する認知診断テストの結果から-」『東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2016 年度国際学術発表大会発表要旨文』 pp.90-92 米国 (ハワイ)、2016.8.5
4. 島田めぐみ・高橋久子・本田正文 (2016) 「ハワイの共通語となった日本語語彙-「ちしゃ」「はぶてる」をめぐって-」『東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2016 年度国際学術発表大会発表要旨文』 pp.95-97 米国 (ハワイ)、2016.8.5
5. 島田めぐみ・孫媛・登藤直弥 (2016) 「日本語助詞認知診断テストからわかる学習者の習得状況」International Conference on Japanese Language Education, インドネシア (Bali Nusa Dua Convention Center) 2016.9.10

【教育活動】

留学生センター開設科目

(春学期) 「日本語4発表A」「日本語1・2特別演習A【プロジェクト】」

(秋学期) 「日本語2文法B」

学部開設科目

(春学期) 「日本語教育概論」

(秋学期) 「日本語教材開発論」「言語学研究法」

大学院開設科目

(春学期) 「多言語多文化教育学特論 (de)」

(秋学期) 「多言語多文化教育研究法 (dm)」

【その他の活動】

①学内

1. 研究倫理委員会副委員長
2. 国際戦略推進本部 ISSUP 部会
3. 協定校コーディネーター（ハワイ大学ヒロ校，エアランゲン=ニュルンベルク大学）
4. ハワイ大学ヒロ校短期留学の企画・引率

②学外

1. 科学研究費補助金 基盤研究（C）「日本語文法認知診断テストの開発」（研究代表者）
2. 科学研究費補助金 基盤研究（C）「高度人材に求められるビジネス日本語フレームワーク構築のための調査研究」（研究分担者）
3. 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 共同研究員
4. 国立大学日本語教育研究協議会 理事
5. 日本語教育学会 学会誌委員会副委員長
6. 東アジア日本語教育日本文化学会理事

【所属学会】

日本語教育学会，日本言語テスト学会，日本テスト学会，日本移民学会，社会言語科学会，東アジア日本語教育日本文化学会

■許 夏玲

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 談話分析, 語用論, 対照言語研究

【研究活動】

① 論文

1. 「プレゼンテーションの電子資料から見た問題点とは何か ―日本語母語話者及び外国人日本語学習者の共通点と相違点―」 東京学芸大学紀要総合教育科学系 第 68 集, pp. 487-492
2. 「テーマ討論型の会話に見られる L2 の L1 への逆行転移の現象 ―中国人上級日本語学習者を対象に―」 第 10 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集, 香港日本語教育研究会, pp. 57-70

② 口頭発表

「日本語学習者による自動詞・他動詞の選択について―人為的事態の場合の自動詞選択を中心に―」 第 11 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム, 香港公開大学, 香港日本語教育研究会 (2016.11)

【教育活動】

1. 留学生センター開設科目
(春学期)「日本語 2 漢字 A1」「日本語 3 講読 A1」「日本語 2 文法 A」
(秋学期)「日本語 5 文法 B1」「日本語 5 文法 B2」「日本語 3 メディで学ぶ日本語 B」
2. 大学院開設科目
(春学期)「日本語研究特論 C」「日本語教育特別研究 I」「日本語教育特別研究 III」
(秋学期)「日本語教育研究法 D」「日本語教育特別研究 II」「日本語教育特別研究 IV」
3. 修士論文主査 3 名
4. 自主日本語ゼミ (春学期・秋学期) 月 2 回
5. 学芸カフェテリア・ランチ講座「海外の学校教育事情」(春学期週 1 回、計 11 回)
6. 講演会「日本語学習者の辞書ツールの使用について考える」
(講師 鈴木智美氏 [東京外国語大学大学院国際日本学研究院]) (11 月 30 日)

【その他の活動】

① 学内

1. 留学生センター主任
2. C ブロック代表
3. 入試情報委員会委員
4. 教育研究専門委員会

② 学外

1. 第 14 回名古屋日本語教育研究集会 (名古屋大学)・司会 2016.8
2. 第 11 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 分科会進行役 2016.11
3. 小金井第 4 小学校「こども祭り」(留学生コーナー)・交流活動 2016.6
4. 第 4 回小金井市主催外国人スピーチコンテスト・審査員 2016.7
5. 附属大泉小学校との交流活動 2016.11

【所属学会】 日本語教育学会, 社会言語科学会, 日本語用論学会, 香港日本語教育研究会

■谷部弘子

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 日本語教育, 日本語学

【研究活動】

①著書 [分担執筆]

谷部弘子 (2016) 「第9章 日常談話にみる確認表現「ジャナイ」「ジャン」の実相」現代日本語研究会 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・高橋美奈子編『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房 (東京), 2016.9

②論文

1. 谷部弘子・高橋美奈子・本田明子 (2016) 「日本語環境は短期留学生の対話能力にどのような作用を及ぼすか」『ヨーロッパ日本語教育』(JAPANESE LANGUAGE EDUCATION IN EUROPE) 20, 237-242, 2016.6
2. 島田めぐみ・谷部弘子・孫媛 (2016) 「日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会, 197-212, 2016.3

③口頭発表等

1. 孫媛・島田めぐみ・谷部弘子 (2016) 「Formative Assessment in Language Education: the Development of a Diagnostic Japanese Grammar Test」 31st International Congress of Psychology、ポスター発表、日本・横浜、2016.7.26
2. 谷部弘子・島田めぐみ・孫媛・登藤直弥 (2016) 「助詞に着目した日本語文法能力測定の試み ―タイ語母語話者に対する認知診断テストの結果から―」東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2016年度国際学術大会, アメリカ・ヒロ, ハワイ大学ヒロ校, 2016.8.5
3. 豊田哲也・孫媛・谷部弘子 「eラーニングのログデータを用いた日本語学習者の学習行動予測」東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2016年度国際学術大会, アメリカ・ヒロ, ハワイ大学ヒロ校, 2016.8.5
4. <パネル発表>加納千恵子・濱川祐紀代・谷部弘子・石井恵理子 (2016) 「非漢字系学習者の<漢字力>の養成を目指して―学習者の日本語レベルや属性に応じて―」2016年日本語教育国際研究大会, インドネシア・バリ, 2016.9.10
5. <ポスター発表>高橋美奈子・谷部弘子・本田明子 (2016) 「接触場面におけるスピーチスタイルの選択―学習者による自然談話の分析から―」2016年日本語教育国際研究大会, インドネシア・バリ, 2016.9.10

【教育活動】

留学生センター開設科目

(春学期) 「日研生特別演習A」

(秋学期) 「日本語1 特別演習(時事日本語) B」「日本語2 漢字B」「日研生特別演習B」

学部開設科目

(春学期) 「学芸フロンティア科目F」「日本語教育概説」

大学院開設科目

(春学期) 「多言語多文化教育研究法」

(秋学期) 「多言語多文化教育学特論」

【その他の活動】

①学内

1. 協定校コーディネーター（インドネシア・インドネシア教育大学）
2. 評議会評議員
3. 国際戦略推進本部・外国人留学生の受入れとグローバル人材の養成プロジェクト実施部会（ISSUP）委員
4. 入学者選抜専門委員会委員

②学外

1. 科学研究費 基盤研究 (B)「日本語の漢字力評価に関する研究」(2015年度～2017年度) (研究分担者) (研究代表者：加納千恵子)
2. 科学研究費 基盤研究 (C)「日本語学習者談話の有効性に関する研究」(2015年度～2017年度) (研究分担者) (研究代表者：高橋美奈子)
3. 科学研究費 基盤研究 (C)「日本語文法認知診断テストの開発」(2014年度～2016年度) (連携研究者) (研究代表者：島田めぐみ)
4. 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 共同研究員
5. JICA 日本語教育支援委員会委員
6. JICA 技術専門委員・技術補完研修講師
7. 東京外国語大学留学生日本語教育センター 教育関係共同利用拠点運営委員会委員
8. 日本語教育学会 大会委員会委員長
9. 小金井市生活日本語教室講習会講師 (2016.9)

【所属学会】

日本語教育学会, 海外日本語教育研究学会, 日本語学会, 社会言語科学会, AJE (ヨーロッパ日本語教師会), 東アジア日本語教育日本文化学会

資料 1 日本語科目（日本語 1～5）一覧（*印は学部開設科目）

2016 年度春学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本語 1 総合 A	澁川晶	火 1
*日本語 1 作文 A1 [専門日本語・ライティング I]	南浦涼介	木 1
日本語 1 作文 A2	奥山貴之	金 2
日本語 1 講読 A1	澁川晶	水 2
日本語 1 講読 A2	新谷あゆり	金 3
*日本語 1 会話 A1 (専門日本語・口頭コミュニケーション I)	西島道	月 1
*日本語 1 会話 A2 (日本語表現法 E・プレゼンテーション I)	南浦涼介	月 1
日本語 1 会話 A3	横山和子	月 4
日本語 1 文法 A	岡智之	火 2
日本語 1 聴解 A	小池恵己子	木 4
日本語 1 漢字 A	東泉裕子	木 2
*日本語 1 特別演習 A (ビジネス日本語) [専門日本語・ビジネス I]	小野塚若菜	金 4
日本語 1 日本語特別演習 A (時事日本語)	奥山貴之	月 2
日本語 1 日本語特別演習 A (ドラマで学ぶ日本語)	宮本典以子	木 4
日本語 1・2 日本語特別演習 A (プロジェクト)	島田めぐみ	火 3
日本語 1・2 発音 A	斎藤純男	木 5
日本語 2 総合 A	横山和子	月 3
日本語 2 作文 A1	今井美登里	火 1
日本語 2 作文 A2	宮本典以子	水 2
日本語 2 作文 A3	桂千佳子	金 4
日本語 2 講読 A1	澁川晶	水 1
日本語 2 講読 A2	新谷あゆり	金 4
日本語 2 会話 A1	澁川晶	火 2
日本語 2 会話 A2	笹目実	金 2
日本語 2 文法 A1	飯野清士	金 1
日本語 2 文法 A2	許夏玲	金 1
日本語 2 漢字 A1	許夏玲	月 2
日本語 2 漢字 A2	桂千佳子	木 1
日本語 2 聴解 A1	鈴木美恵子	木 2

日本語 2 聴解 A2	小野塚若菜	金 3	
日本語 2 日本語特別演習 A (ドラマで学ぶ日本語)	宮本典以子	水 1	
日本語 2 日本語特別演習 A (マンガで学ぶ日本語)	宮本典以子	木 4	
日本語 2 日本語特別演習 A (ビジネス日本語)	福島恵美子	木 3	
日本語 1・2 日本語特別演習 A (プロジェクト)	島田めぐみ	火 3	
日本語 1・2 発音 A	斎藤純男	木 5	
日本語 3 総合 A1	伊能裕晃	火 3	
日本語 3 総合 A2	伊能裕晃	火 4	
日本語 3 作文 A1	坂田睦美	火 2	
日本語 3 作文 A2	李貞旻	水 2	
日本語 3 講読 A1	許夏玲	月 4	
日本語 3 講読 A2	小池恵己子	木 3	
日本語 3 会話 A1	横山和子	月 2	
日本語 3 会話 A2	福島恵美子	木 4	
日本語 3 漢字 A	桂千佳子	金 4	
日本語 3 文法 A	石崎晶子	木 2	
日本語 3 聴解 A	鈴木恵美子	木 1	
日本語 4 総合 A	坂田睦美	火 1	
	宮本典以子	水 1	
	東泉裕子	木 1	
	島田めぐみ	木 2	
	笹目実	金 1	
日本語 4 漢字 A	李 貞旻	水 2	
	日本語 5 総合 A	笹目実	月 1・2
		今井美登里	火 1・2
		桂千佳子	木 1・2
飯野清士		金 1・2	
日本語 5 聴解 A	石崎晶子	木 3	
日本語 5 作文 A	李 貞旻	水 1	
日本語 5 漢字 A	斎藤純男	水 2	
		金 3	

2016 年度秋学期

科目名	担当教員	曜日・ 時限
日本語 1 総合 B	桂千佳子	金 2
*日本語 1 作文 B1 [専門日本語・ライティング II]	斎藤ひろみ	木 1
日本語 1 作文 B2	笹目実	金 5
日本語 1 講読 B1	李貞旻	木 4
日本語 1 講読 B2	新谷あゆり	金 3
*日本語 1 会話 B1 (専門日本語・口頭コミュニケーション II)	斎藤ひろみ	月 1
日本語 1 会話 B2	小池恵己子	木 3
日本語 1 文法 B	岡智之	月 3
日本語 1 聴解 B	桂千佳子	水 1
日本語 1 漢字 B	横山和子	月 4
*日本語 1 特別演習 B (ビジネス日本語) [専門日本語・ビジネス I]	小野塚若菜	金 4
日本語 1 日本語特別演習 B (小説)	奥山貴之	金 1
日本語 1 日本語特別演習 B (ドラマで学ぶ日本語)	笹目実	月 2
*日本語 1 日本語特別演習 B (プレゼンテーション) [日本語表現 法・プレゼンテーション II]	西島道	月 1
日本語 1 特別演習 B (時事日本語)	谷部弘子	火 2
日本語 1・2 日本語特別演習 B (発音)	斎藤純男	火 4
日本語 2 総合 B	鈴木美恵子	金 2
日本語 2 作文 B	桂千佳子	金 1
日本語 2 講読 B1	李貞旻	水 2
日本語 2 講読 B2	鈴木美恵子	金 3
日本語 2 会話 B1	李貞旻	木 3
日本語 2 会話 B2	笹目実	金 4
日本語 2 文法 B	島田めぐみ	月 3
日本語 2 漢字 B	谷部弘子	月 4
日本語 2 聴解 B	宮本典以子	木 1
日本語 2 日本語特別演習 B (マンガで学ぶ日本語)	宮本典以子	水 1
日本語 2 日本語特別演習 B (ビジネス日本語)	福島恵美子	木 4
日本語 1・2 日本語特別演習 B (発音)	斎藤純男	火 4

日本語3 総合B1	伊能裕晃	火3
日本語3 総合B2	伊能裕晃	火4
日本語3 作文B	坂田睦美	火2
日本語3 講読B	小池恵己子	木4
日本語3 会話B1	笹目実	月2
日本語3 会話B2	福島恵美子	木3
日本語3 漢字B	新谷あゆり	金4
日本語3 文法B	横山和子	月3
日本語3 聴解B	石崎晶子	木2
日本語3 日本語特別演習B (メディアで学ぶ日本語)	許夏玲	水2
日本語4 総合B	今井美登里	火1
		火2
	東泉裕子	木1
		木2
日本語4 講読B	鈴木美恵子	金1
日本語4 会話B	笹目実	月1
日本語4 作文B	横山和子	月2
日本語4 漢字B	斎藤純男	金2
日本語5 総合B	飯野清士	金1
		金2
日本語5 聴解B	石崎晶子	木3
日本語5 会話B	岡智之	火2
日本語5 作文B	李 貞叟	水1
日本語5 講読B	桂千佳子	水2
日本語5 文法B	許夏玲	月1
		月2
日本語5 漢字B	坂田睦美	火1
	宮本典以子	木2

資料2 日本理解科目一覧
2016年度春学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本理解 A (教育)	戸田孝子	木 4
日本理解 C (人文)	有澤知乃	火 2
日本理解 E (人文)	高崎 恵	水 1
日本理解 G (自然)	竹本弘幸	木 2
多文化共修科目 A 「異文化理解とコミュニケーション」	岡 智之	木 1
多文化共修科目 C 「世界の言語と文化」	斎藤純男	月 1

2016年度秋学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本理解 B (教育)	遠座知恵	木 2
日本理解 D (人文)	千田洋幸	金 5
日本理解 F (社会)	加藤 拓	金 2
日本理解 H (芸術)	石井 健	金 4
多文化共修科目 B 「多文化社会とコミュニケーション」	岡 智之	月 1
多文化共修科目 D 「世界の民族と文化」	有澤知乃	木 1

資料3 短期留学プログラム (ISEP) 科目一覧

2016年度春学期

	科目名	授業担当教員
1	ISEP Seminar II	有澤 知乃(留学生センター)
2	Cross-Cultural Ideas and Activities	戸田 孝子(国際教育教室)
3	Counseling in Japan	佐野 秀樹(カウンセリング教室)
4	Introduction to Psychophysiology	池田 一成(学校心理教室)
5	Cross-Cultural Representations and Practice	Joshua P. Dale (英語科教室)
6	Tokyo – A Multi-disciplinary Approach	佐伯 英子(留学生センター)
7	Exploring the Cultural Diversity of Japan (I)	有澤 知乃(留学生センター)
8	Theatre Workshop	高尾 隆(表現コミュニケーション教室)
9	Recreation and Sports in Japan: Cycling	渡辺 雅之(保健体育科教室)
10	Recreation and Sports in Japan: Aquatic Sports (Swimming)	岩本 良裕(保健体育科教室)

2016年度秋学期

	科目名	授業担当教員
1	ISEP Seminar I	有澤 知乃(留学生センター)
2	Cross-Cultural Teaching Practice	戸田 孝子(国際教育教室)
3	Cultural Social Psychology of the Japanese	杉森 新吉(心理学教室)
4	Critical Issues in Contemporary Japanese Society	オムニバス
5	Philosophy and Ethics in Japan	栗原 裕次(社会科教室)
6	“Japan Cool” Abroad: Analysis and Fandom	Joshua P. Dale (英語科教室)
7	Exploring the Cultural Diversity of Japan (II)	有澤 知乃(留学生センター)
8	Traditional Performing Arts of Japan	有澤 知乃(留学生センター)
9	Natural Science in Japan	藤本幸一郎(自然環境科学教室)

10	Traditional Metal Carving	古瀬 政弘(美術科教室)
11	Recreation and Sports in Japan I: Table Tennis	渡辺 雅之(保健体育科教室)
12	Japanese Business Enterprises	原田和雄(自然環境科学教室)
13	Recreation and Sports in Japan II: Skiing	岩本 良裕(保健体育科教室)

資料4 主な行事の写真

春のハイキング（お鷹の道・国分寺）



国際交流合宿（山中湖）



紅葉狩り（殿ヶ谷戸庭園）



カフェ講座合同パーティ



結城座ワークショップ



東京都立大島高校の訪問



資料 5

各種プログラム概要

■日本語日本文化研修留学生 プログラム概要 (2015.10～)

1 研修内容

以下の6分野に分かれています。

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| (1) 日本語科目 | (2) 日本理解科目 | (3) 日研生特別演習 |
| (4) 専門研究 | (5) 個人研究 | (6) 文化交流 |

(1) 日本語科目

各学期のはじめにプレースメントテストがあります。留学生対象の日本語科目を受講したい人はかならず受けてください。

留学生対象の日本語科目は「選択科目」です。日本語力が十分にある人は、専門研究を通して日本語力を高めることもできます。

(2) 日本理解科目

留学生対象の日本理解に関する科目として、「日本理解」8科目(秋学期:B, D, F, H、春学期:A, C, E, G)、「多文化共修科目」4科目(秋学期:B, D、春学期:A, C)があります。これらの科目は「選択必修科目」です。この中から最低2科目を選んで受講してください。

(3) 日研生特別演習

日研生のための「日研生特別演習Ⅰ」(秋学期)・「日研生特別演習Ⅱ」(春学期)があります。これらは「必修科目」です。かならず出席してください。

(4) 専門研究

自分の研究テーマや興味・関心、日本語力を考えて、指導教員とよく相談し、必要な科目を選択してください。留学生対象科目以外に学部の開設科目も受講できます。

(5) 個人研究

研修修了までに、レポートにまとめて提出します。テーマについては、指導教員とよく相談してください。「日研生特別演習Ⅱ」の時間帯で、レポートの内容について発表してもらいます。

(6) 文化交流(学生交流、地域交流、見学旅行ほか)

大学の企画のほかに、民間団体や自治体主催のホームステイ・プログラムや小中学校の国際理解プログラム、地域の行事などがあります。大学に案内がきた場合は、国際課の掲示板に掲示しますので、各自で申し込んでください。

2 修了証書と修了要件

1年間の研修を終え、その成果を指導教員が認めたものについては、本学学長名において修了証書を授与します。修了のためには、つぎの4点が必要です。

- a. 上記(2)を2科目以上履修すること

- b. 上記(3)の2科目を履修すること
- c. 上記(1)～(4)まで合わせて12科目以上履修すること
- d. 上記(5)のレポートを期限までに提出すること

*毎学期、6科目以上履修しなければなりません。

8月の時点で以上4点が確認できないと、プログラム修了と認められません。

■ISEP プログラム概要

ISEP (International Student Exchange Program)では留学生向けに幅広いトピックの授業を英語で開講しています。また、教室で行われる通常の授業の他に、音楽、美術、運動のクラスや、フィールドスタディーのクラスもあります。ISEP生はその他に、ISEP セミナーに出席し、各自で決めた研究テーマの理解を深めるため、指導教員の指導のもと、調査を行いレポートにまとめます。

■授業

以下の6分野にわかれています。

1. ISEP 科目

授業は英語で行われます。全ての留学生が履修することができます。

2. ISEP セミナー

秋学期、春学期共に開講され、必修科目です。

3. 個人研究

ISEP生は全員、個人研究に取り組みます。秋学期の終わりに研究計画書、春学期の終わりには最終レポートを提出する必要があります(秋学期のみの参加者は秋学期の終わりまでに最終レポートを提出します)。レポート提出後は指導教員とISEP教員等の前で発表をします。

4. 日本語科目

ISEP生はそれぞれのレベルに合わせた日本語の授業を取ることができます。レベルは5(初級)から1(上級)まであり、プレースメントテストの結果によって履修するレベルが決まります。

5. 日本理解科目

日本語能力の高い留学生は、留学生向けに日本語で行われる「日本理解科目」を受講することもできます。また、留学生と日本語を母語とする学生が共に同じ教室で学ぶことのできる「多文化共修科目」を履修することもできます。

6. その他の授業

日本語能力の高い ISEP 生は東京学芸大学で開講されている一般学生向けの授業を履修することもできます。全ての講義は日本語で行われるため、留学生の語学力によって履修できるかどうかが決まります。

ISEP 生は 1 学期に 14 単位以上の授業を履修しなければなりません。そのうち 9 単位は ISEP 科目と個人研究である必要があります。

- ISEP 科目 = 1 または 2 単位
- 個人研究 = 1 学期につき 1 単位
- 日本語科目 = 1 授業につき 1 単位
- 日本理解科目 = 2 単位
- 学部生向けのその他の授業 = 1 または 2 単位

■教員研修プログラム

1. プログラムの目的

教員研修留学生プログラムは、本国で教育ないし教育行政にたずさわる人が日本の大学の教員養成学部において 18 か月間の研修を行い、その成果を帰国後に本国で生かしてもらおうというものである。

研修留学生の専門の研究はそれぞれ所属の研究室にておこなうが、日本語の運用能力を身につけずに来日した場合は、初めの 1 学期間、留学生センターの日本語コースにて 1 週間 14 コマ×15 週間の集中コースを受講する。

2. 研修内容

2-1 専門教育

指導教員の指導のもとで、研修生の希望、個人研究のテーマ、日本語能力などを考慮して履修科目を決定する。

2-2 個人研究

本人の希望する研究テーマについて、指導教員の指導の下で研究し、研修終了時までその成果をレポートにまとめ、提出する。これは報告書として刊行される。

2-3 見学実習

附属学校・教育行政機関・施設などの参観、地域の文化活動への参加、日本人学生との交流、見学実習などを必要に応じて実施する。

2-4 日本理解科目

下記の 2 科目以上を履修しなければならない。

- ① 年度ごとに指定する科目の中から1科目以上。
- ② 「日本理解科目A～H（春学期ACEG、秋学期BDFH）」、「多文化共修科目A～D（春学期AC、秋学期BD）」、「短期留学プログラム（ISEP）講義科目・フィールド科目」のすべての科目の中から1科目以上を履修する。（①+②で2科目以上）

科目とその概要については各学期のはじめに案内する。日本理解科目の一覧表は留学生センターのホームページに掲載されている。

2-5 特別演習 Special Seminar

最初の秋学期のみ数回特別演習が行われる。

2-6 日本語科目 Japanese-Language Courses

日本語科目はプログラムの必修科目ではないが、履修を希望する者はかならずプレースメントテストを受け、その結果にしたがって指示されるクラスで受講する。

2-7 修了証書 Certificate of Completion

所定の研修を終え、その成果を指導教員が認めた者については、本学学長の名において修了証書を授与する。